

# 明けない夜はない

## 新型コロナウイルス感染症による緩和ケア病棟への甚大な影響

日本ホスピス緩和ケア協会理事長 志真 泰夫  
筑波メディカルセンター代表理事



2019年12月に中国から始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の「世界的流行（pandemic）」は地球規模となり、2021年に入り感染者が世界で1億人を超えました。当協会もその大きな渦に巻き込まれ、COVID-19は全国の緩和ケア病棟に甚大な影響をもたらしました。

2020年11月以降で全国の協会加盟施設の院内感染によるクラスター（集団感染）となった件数は、協会事務局で把握できているもので56病院に上ります。幸い2月までに35病院では収束しています（2021年2月25日現在）。すでにご存知の方も多いと思いますが、会員施設である北海道の2つの病院では大規模なクラスターになりました。それらの病院の緩和ケア病棟で働くスタッフは大変厳しい状況に置かれました。わたしが勤務する病院でも、昨年12月に病院職員から感染者が出て、幸いクラスターとはなりませんでした。救急業務と外来診療の一部を止めざるを得ませんでした。

また、協会事務局によれば2021年2月現在で緩和ケア病棟が新型コロナウイルス感染症専用病棟に転用されている病院が9施設、新型コロナウイルス感染拡大に関連して緩和ケア病棟を閉鎖、休止している病院が10施設あります。そのほか、一旦感染症専用病棟に転用され、その後緩和ケア病棟として再開した病院が9施設あります。これらの病院で働いている医師や看護師はじめ病棟スタッフはつらい日々を過ごしたと思います。そして、今も感染症の流行に翻弄されている緩和ケア病棟では、大変な思いをされていることでしょう。

第3波の感染拡大は第1波を上回り、全国の病院に広く影響を及ぼしています。院内感染やクラスター発生に無縁でいられる施設はなく、医療従事者であれば誰もが感

染の危険と隣り合わせであることを意識せざるを得ません。現在の状況の下で

は何より病院内での感染予防を徹底して、集団感染のリスクを減らすことが重要です。そして、病棟では面会のやり方を工夫して、この困難な状況の下でも人と人とのつながりを大切にするケアを継続してください。

新型コロナウイルス感染症の流行は、なかなか終わりの見えない状態ですが、「明けない夜はない」、かならず、感染症の流行が終息する時期が来ます。そして、この大変な時期に緩和ケアに携わる医療従事者一人一人が、己（おのれ）を見失うことなく、1日1日を丁寧に過ごすことを意識してほしいと思います。これまでとは違う役割ややり方を求められることがあるかもしれません。そんな状況でも私たちは前を向いて一步一步、一緒に歩んでゆきたいと思います。



沖縄・知念岬から望む久高島の日の出

# 第3回日本Whole Person Care研究会

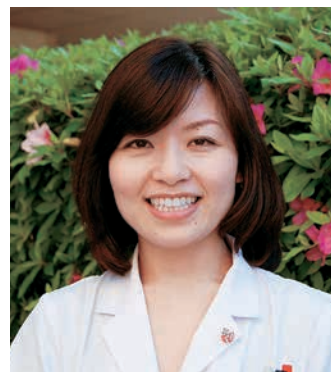
## ～多様なアイデンティティを共有しよう!～ 開催報告

◆ 日時:2021年3月13日(土) 13:30～17:00

◆ 場所:WEB開催(Zoomにて)

第1部 講演『AIとWPC』 松岡順治氏 岡山大学ヘルスシステム統合科学研究科  
グループワーク『苦悩への応答』 恒藤 暁氏 京都大学医学部附属病院緩和医療科

第2部 パネルディスカッション『多様なアイデンティティを共有しよう』  
司会:三好智子氏  
パネリスト:松川えり氏、飯田淳子氏、宮地由佳氏



岡山大学大学院医歯薬学総合研究科  
くらしき総合診療医学教育講座

三好 智子

うらかな好季節を迎えますが、皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

コロナ禍での春も2回目となり、2021年3月13日(土) 13:30～17:00にて、第3回日本Whole Person Care研究会をZoomで開催いたしました。前回の第2回Whole Person Care研究会では、「あなたの人生の優先事項は何ですか?」のワークで他者の多様な価値観に触れたことと思います。そこで今回は、他者の多様なアイデンティティを理解するために、医療の枠組みの中で、人類学的な、哲学的な、そして、宗教学的な切り口で互いを理解する視点を学ぶ機会として本会を企画しました。

当日は、52名の参加者の方にご参加頂きました。岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 松岡順治特任教授には、『AIとWPC』について、ご講演頂きました。現在でもインターネットを使ってご自身の症状から診断名を心配して受診される方もおられるように、今後はAIが医療現場で益々活躍する時代になると考えられます。一方で、AIによる効率的な医療の中で、癒しについては、我々医師ができることが多くあることに気付きました。京都大学医学部附属病院 緩和医療科 恒藤暁教授によるグループワーク『苦悩への応答』では、自分の助けになった支援  
やならなかった支援を考えることで、自分が他者に行っている支援を見つめ直



す機会を頂きました。そして、パネルディスカッション『多様なアイデン

ティティを共有しよう』では、人類学者・川崎医療福祉大学医療福祉学部 飯田淳子先生は絵手紙から見たご主人の最期の時の奥様の思いや愛情を、哲学者 松川えり先生には哲学カフェを通した一つの役割にも多様なアイデンティティがあり、また、一人の人間の中にも多様なアイデンティティが存在することを教えて頂きました。更に、医師であり科学修士 (Science and Religion)・京都大学医学部非常勤講師 宮地由佳先生には、世界観World Viewを通して見た時に、つまり一つの枠組みで見た時に、見えるもの・見えないものを意識することもご教授いただきました。

全体討論も多くのご質問を頂き、盛会のうちに時間となりました。末尾ながら、演者の先生方やご参加頂いた皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。

当日の講演録と資料はホームページに掲載いたします。

### 【次回の予告】

#### 第4回日本Whole Person Care研究会

★ 日時: 2021年8月7日(土) 13:30-16:30

★ 場所: 富山大学医学部

(オンサイト、オンライン同時開催予定)

★ テーマ: Whole Person Careの事例検討と  
マインドフルネス教育

## お知らせコーナー

●ホスピス緩和ケア白書2021が  
発行されました

特集テーマ がんの緩和ケアとリハビリテーション  
発行：青海社 3,000円+税

●好評発売中『Whole Person Care 実践編  
AI時代に心を調え、心を開き、心を込める』

Tom A.Hutchinson著、恒藤 暁訳  
発行：三輪書店/A5判 212p 2,000円+税



## ●2022年度 調査・研究助成金、募集中

募集要領はホームページをご覧ください。

## 本年度に予定されている事業

- ホスピス・緩和ケアボランティア研修会  
7月頃に大阪地区で開催予定
- 第4回日本Whole Person Care研究会  
日時：2021年8月7日（土）開催予定
- 第4国際セミナー Hutchinson先生による「Whole Person Care 対話型ワークショップ」9月開催を予定
- ホスピス財団20周年記念講演会  
日時：2021年10月2日（土）14時～15時30分  
場所：WEB開催（LIVE）

いずれも詳細は後日にホームページにて案内いたします。

## 近刊紹介

## たましいの安らぎ

藤井 理恵著

いのちのことば社

2020年10月刊 1400円+税



「たましいの痛みを抱えながらも最期まで生き抜いた方々や、その間に答えを見だしていかれた方々から教えられたことを紹介しながら、チャプレンの役割や、そのスピリチュアルケアのあり方について述べてみたいと思います。」（本書・はじめにより）と書かれているように、ホスピス病棟で、病院チャプレンとして30年にわたる経験から、スピリチュアルケアについての理論に始まり、自身が患者との関わりの中で体験された多くの事例が紹介されている。そしてクリスチャンであるというチャプレンの立場から、死を間近に感じている方々に対して、「信じて生きること」「死の受容と人生の肯定」「手放すこと」が、たましいの安らぎを与える道筋として大切であると語られている。また、このことはホスピス病棟の患者に限らず、やがては最期を迎える全ての人にとっても大切なことだと思わされる。医療に携わる方を始め、たましいの安らぎを求めておられる方に一読を薦めたい良書である。

こんにちは  
ホスピス勤医協中央病院  
ホスピスケアセンターの紹介

緩和ケア科 ホスピスケアセンター長 川畑 恵

医師「お、今日は暑寒別（ショカンベツ）連峰が見えているねえ。」

患者さん「わー、きれいだねえ。今日は何か良いことがあるかもしれないねえ。」

朝の回診中の会話です。

勤医協中央病院の緩和ケア病棟（ホスピス）は、病院の6階にあり、大きな窓から北は暑寒別連峰、南は恵庭（エニワ）岳・樽前（タルマエ）山を見渡すことができ、美しい景色に患者さんだけでなくスタッフも癒されています。

緩和ケア病棟は24床。看護師22名、ケアワーカー2名、

事務1名と作業療法士2名が医療・ケアを提供しています。緩和ケア科は、医師3名で緩和ケア外来、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟を診ています。外来通院中や治療科病棟入院中から



景色を見ながら、患者さんとの会話が弾んでいます

のお付き合いが緩和ケア病棟に入院しても続くため、患者さんやご家族の意向や

考えを把握しやすいというメリットがあります。入院していただいたときには病棟のスタッフ全体で患者さんの希望を共有し、その希望を支え続ける事ができる関りを継続しています。作業療法士と一緒に考えてくれることで、患者さんの身体機能の維持のためのリハビリの継続や、在宅療養の希望がある場合には身体機能に合った在宅調整をすることができます。

急性期病院の中の緩和ケア病棟の役割は、数年前と比較して大きく変化してきていると感じています。「最期の時を過ごす場所」だけでなく、「在宅療養に戻りたい気持ちをかなえる場所」「化学療法や放射線治療中の患者さんの症状緩和をして治療に戻ることができるようにする場所」など、多岐に渡ってきています。

スタッフ全員で、日々の学びを大切にしながら、患者さんに「今日、一日、生きていて良かった」と感じていただける医療・ケアを提供していきたいと考えています。



小さい雪だるまは患者さんも作っていただきました



一時的にコロナ病棟になり、  
「緩和ケア病棟に戻ったらまた一緒にがんばろうね」

## ホスピス財団 2021年度事業計画書（概略） （2021年4月～2022年3月）

1. ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業（公募）
2. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究事業（第5次調査・2年目）
3. 『ホスピス緩和ケア白書 2022』（特集テーマの概説+データブック）作成・刊行事業
4. 救急・集中治療における緩和ケアの推進
5. ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー開催事業
6. Whole Person Careワークショップ開催事業
7. 『MD Aware：A Mindful Medical Practice Course Guide』翻訳事業
8. 日本Whole Person Care研究会開催事業
9. 「ともいき京都」におけるがん体験者・市民主体のプログラム創生事業
10. 緩和ケア・支持療法領域に関わる医療従事者を対象とした意思決定支援に関する研修セミナーの開催
11. 一般広報活動事業
12. 『これからのとき』『旅立ちのとき』冊子増刷
13. ホスピス・緩和ケアフォーラム開催事業
14. ホスピス財団20周年記念講演会
15. 第4回国際Whole Person Care学会参加
16. 第4回国際セミナー開催事業
17. APHN関連事業
18. 日本・韓国・台湾・香港・シンガポール 第3期共同研究事業（3年計画の3年目）

詳細はホームページに掲載しています。

## ホスピス財団 2021年度収支予算書（概要）

2021年4月1日から2022年3月31日まで（単位：千円）

科 目	2021年度予算
<b>【経常収益】</b>	
①基本財産運用益	3,628
②受取寄付金	16,700
（内訳） 賛助会費収入	16,400
一般寄付金収入	300
③雑収益	1,100
<b>経常収益計（A）</b>	<b>21,428</b>
<b>【経常費用】</b>	
①事業運営費	35,035
（内訳）ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業	10,018
ホスピス・緩和ケア従事者に関する教育事業	9,643
ホスピス・緩和ケアに関する普及・啓発事業	6,757
ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業	8,617
②一般管理費	5,863
<b>経常費用計（B）</b>	<b>40,898</b>
<b>当期経常増減額（A－B）</b>	<b>▲19,470</b>

不足分は前期繰越金等で充当予定

### 寄付者一覧

（2020年9月～2021年2月 順不同、敬称略）

（団体）遺愛女子中学校・遺愛女子高等学校  
阪神聖書研究会

（個人）竹下 淳也 永吉 優  
河合 智矢

### 寄付・賛助会員のお願い

私たちの活動は、全て、皆さまからのご寄付と賛助会員の方々の会費に拠っております。どうか私どもの活動の趣旨をご理解いただき、ご寄付・賛助会員のお申し込みを頂けるようお願いいたします。

（税額控除の対象になります）

また、「遺贈」による寄付もぜひご一考下さい。当財団は、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」について提携しております。公益法人への遺贈に拠る寄付財産は、原則として相続税の非課税財産となります。

上記ご寄付、賛助会員、遺贈に関するお問い合わせは

**06-6375-7255** です。

### 編集後記

昨年の今頃は、新型コロナウイルス感染症が大きな問題となりつつあったが、いまだに終息には至っておらず、ホスピス緩和ケアの領域においても、多くの困難を強いられている現状である。当財団でも、計画していた事業が中止や延期となり、忸怩たる思いの一年であった。とはいえ待望のワクチン接種も、ようやく広がりつつあり、寄稿いただいた巻頭言「明けない夜はない」という言葉通りになることを待ち望みたいものである。しかし、ホスピス病棟におられる患者の皆様にとっては、この言葉がどのように響くのだろうか、ふと思わされた。患者の皆様が、健全な者とは異なるかも知れないが「平安ある希望の朝」を見出されることを祈るものである。（編集子）



ニライカナイ橋から望む久高島